



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：反政府勢力がトリポリを占拠

リビア情勢は、山場を迎えている。首都周辺を押さえた反政府勢力は、8月20日から首都トリポリへの進攻を開始した。反政府部隊は、ほとんど抵抗を受けないままトリポリの中心部を占拠した。21日夜には、カッザーフィー親衛隊が反政府勢力に投降したと報道されている。22日朝の時点では、反政府勢力がトリポリの大半を占拠したが、カッザーフィー大佐の住宅があるバーブ・アジジヤ地区と周辺のホテルで、カッザーフィー側部隊が戦車を繰り出して抵抗していると報道されている。

トリポリ周辺地域では、反政府勢力が12日頃から攻勢を強化し、18日までに東にあるザーウィヤや南にあるガルヤンを占拠していた。また西部戦線では、20日に反政府勢力が4月から攻撃をしてきたブレガを占拠した。

8月22日午前時点では、カッザーフィー大佐の所在は不明。同大佐は、21日に国営放送に音声メッセージを放送させている。カッザーフィー大佐の長男、次男、三男が反政府勢力側に拘束されたと報道されている。22日には、マフムーディ首相がチュニジアに逃げたとの報道もある。

カッザーフィー大佐の消息がはっきりするまで、トリポリあるいはリビアでの戦闘で決着がついたことにはならないだろう。他方、21日にリビア情勢について声明を出した米国のオバマ大統領、NATOのラスムセン事務総長は、カッザーフィー後に国民評議会と協力する用意があることを表明している。チュニジアとエジプトでの先例では、独裁者追放後の新体制構築が難航している。リビアも、状況は同じだろう。

アルジャジーラ放送（電子版）は、いくつかのアラブ側の反応を報道している。

・パレスチナのハマース：

リビア人革命勢力のトリポリ進攻を歓迎。これはリビアの歴史を変換するもの。

・バハレーンのシーア派野党ウィファーク：

トリポリ及び緑の広場への到達についてリビア国民を祝福。民主主義・自由、近代国家の建設によって革命の目標達成に近付いたことを祝福。

・チュニジアの Rencontre Reformatice Democratique (LIQAA)：

革命の成功について同胞のリビア国民を心より祝福する。健全な愛国心と民主主義、人権に基づく新しいリビアの建設にリビア国民が成功するよう祈念。

(主席研究員 中島 勇)